手塩川流域委員会　御中

手塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出ます。

平成１７年３月２０日

（５７歳・男）

札幌市

意見

環境科学の立場から、手塩川の河川整備・管理について、意見を述べたい。
現在、出されている管理計画でもっとも大きな問題はサンルダムの建設計画である。この計画は、新河川法、ならびに生物多様性条約にてらして、重大な問題がある。新河川法では、従来の治水・利水・親水に加えて河川環境の維持整備がうたわれているが、サンルダム計画では、サクラマスの遡上に大きな影響が出るだけでなく産卵場所が大きく失われるなど、サンル川・手塩川の河川環境に決定的な悪影響をもたらす。サクラマスへの悪影響は、手塩川の河川生態系全体にも大きな影響をもたらすことは必至であり、これは生物多様性条約からみても、許されない。環境科学の立場からすれば、サンルダムの建設目的とされている治水・利水・発電などはいずれもダムに代わる代替案で十分に達成可能であり、手塩川の河川環境に決定的なダメージを与えるサンルダム計画は科学的に容認できない。
さらに、このような重大な問題を検討する手塩川流域委員会の委員が、事業を推進しようとする開発局によって一方的に選ばれ、ダム計画に疑義を呈し早くから反対してきた流域の住民が最初から委員秋メンバーに含まれていないことはきわめて大きな問題である。。開発局のすすめてきた事業にこれまで基本的に反対したことがない学者を委員に入れる一方、サンルダム計画に疑問を投げかけてきた環境科学者や社会科学者をほとんど委員に入れていないことは、ダム計画を意図的に推進するための委員会ともとられかねないきわめて不公平・不公正な人選といえる。今後、流域委員会に市民や環境団体が推薦する委員の追加を認めるなど、流域委員会における公平性・公正性・透明性の確保がまず第一になされるべきである。